

第4回臨時会

給食調理業務の債務負担行為可決

第4回定例会で否決された給食調理業務の債務負担行為について、12月16日、全員協議会が開催されました。町側からさらに詳しい説明がされ、踏みこんだ議論も行われました。その結果、今までより給食業務の支出は増えるが、民間委託となっても今までと給食の内容、調理員の処遇などが変わることはないことを確認されました。

その結果、12月19日の第4回臨時会で再提案され、賛成多数で可決しました。

◆◆◆ 令和6年 第4回定例会賛否一覧 ◆◆◆

※これ以外の議案等は全員一致です。

議員名 議案等の内容	議員名											結果	
	深見迪	櫻井一隆	本多耕平	鈴木裕美	鴻池智子	齊藤昇一	黒沼俊幸	長尾式宮	松下哲也	渡邊定之	類瀬光信		菊地誠道
意見書案第12号 「核兵器禁止条約締約国会議」へのオブザーバー参加を求める意見書	○	○	○	○	○	×	○	×	欠	○	○	△	原案可決
意見書案第13号 「紙」の健康保険証の廃止を撤回し、存続を求める意見書	○	○	×	○	×	×	○	×	欠	○	○	△	原案可決
議案第57号 令和6年度標茶町一般会計補正予算に対する修正案	○	○	×	退	×	×	○	×	欠	○	○	△	修正可決

○ 賛成 × 反対 退 退席 欠 欠席 (議長は、可否同数以外の採決には加わりません。)

意見書

次の3件の意見書案が提出され、いずれも賛成多数で可決されました。意見書は議長名で国、道の関係機関へ送られました。

意見書案第11号

核のごみ「最終処分場選定の概要調査」に対して反対することを求める意見書

・北海道は2000年に「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例(核抜き条例)」を定め、「核のごみ」の持ち込みを受け入れたいと表明しています。道民が安心して生活できる環境を保持するため概要調査に進まないことを求めたものです。

意見書案第12号

「核兵器禁止条約締約国会議」へのオブザーバー参加を求める意見書

・日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。唯一の戦争被爆国である日本が政府として「核兵器禁止条約締約国会議」にオブザーバーで参加し、核兵器廃絶に向けた役割と責任を発揮することを求めたものです。

意見書案第13号

「紙」の健康保険証の廃止を撤回し、存続を求める意見書

・政府は2024年12月2日にこれまで使用されていた健康保険証を廃止して、マイナンバーカードと健康保険証を一体化させました。そのため、現行の保険証を存続させればかける必要のない手間とコストが生じています。「紙」の保険証の廃止をやめ今までごおり存続させることを求めたものです。

第四回定例会 議会日志から

- 十月四日 広報委員会
- 十月二十五日 厚生文教委員会所管事務調査
- 十月三十日 厚生文教委員会所管事務調査
- 十一月五日 総務経済委員会所管事務調査
- 十一月十四日 全員協議会
- 十一月二十一日 釧路町村議会議員研修会
- 十一月二十五日 厚生文教委員会所管事務調査
- 十一月二十八日 川上郡衛生処理組合第1回臨時会
- 十一月二十八日 釧路北部消防事務組合第2回臨時会
- 十一月二十九日 議会運営委員会
- 十二月三日 第4回定例会
- 十二月三日 総務経済委員会
- 十二月三日 厚生文教委員会
- 十二月三日 議会運営委員会
- 十二月四日 広報委員会
- 十二月十六日 全員協議会
- 十二月十九日 第4回臨時会
- 十二月十九日 釧路町村議会議長会12月定例会
- 十二月二十日 広報委員会
- 十二月二十五日 広報委員会
- 一月八日 総務経済委員会所管事務調査
- 一月十日 陳情第1号審査
- 一月十四日 広報委員会



令和7年 元旦 多和平 初日の出

謹賀新年

深見 迪 櫻井 一隆 本多 耕平 鈴木 裕美 鴻池 智子 齊藤 昇一 黒沼 俊幸 長尾 式宮 松下 哲也 渡邊 定之 類瀬 光信 菊地 誠道

編集後記

「議会だより139号」をお届けします。2024年度（令和6年度）最後の第4回定例会と10月に行われた決算委員会の内容が主となっています。

一般質問では、障がい者福祉の在り方、未利用の町有施設の活用、教育、子育て諸課題、駅前商店街の振興、観光振興、灯油高騰対策など、いずれも直接町民の暮らしにかかわる内容で活発に議論されました。

また、学校給食、病院給食の民間委託の提案があり、このうち学校給食については、一時否決され、その後再度町側の説明、提案があり、慎重な議論の末可決するという波乱含みの内容もありました。学校給食については、討論も掲載しましたのでぜひお読みください。

2024年は、1月1日に最大震度7という能登半島地震が起き、さらに同じ地に9月21日、未曾有の豪雨災害が襲いました。心からお見舞いを申し上げるとともに、今なお復興途上の能登の地に一日も早く救援の手が差しのべられ日常の暮らしと笑顔が戻ることを願って編集後記といたします。

（文責・深見 迪）